

令和元年度第2回浦安市教育ビジョン策定検討委員会議事録

1 開催日時 令和元年7月10日(水) 午前10時～12時

2 開催場所 市役所4階S2・S3会議室

3 出席者

(委員) 西脇委員長、天笠副委員長、瀬川委員、室井委員、影山委員、市村委員、鈴木委員、船橋委員、島田委員、小檜山委員、岡部委員、白石委員、八田委員、醍醐委員、宇田川委員、
(15名出席)

(欠席委員) 伊藤委員、大友委員

(事務局等) 田中係長、柏井主査

(株名豊：糸魚川(コンサルタント業務))

4 議題

1. 開 会

2. 令和元年度第1回浦安市教育ビジョン策定検討委員会議事録の確認について

3. 議 事

(1) 浦安市教育振興基本計画(浦安市教育ビジョン)の骨子(案)について

(2) 浦安市学校教育推進計画の骨子(案)について

4. 諸連絡

5. 閉 会

5 議事の概要

1. 開 会

事務局 : 本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。(資料確認)
それでは、ここからの会の進行を委員長にお願いいたします。

委員長 : それでは、ただ今から第2回浦安市教育ビジョン策定検討委員会を始めたい
と思います。(出席者数により本会成立)

2. 令和元年度第1回浦安市教育ビジョン策定検討委員会議事録の確認について

事務局 : (資料1「令和元年度第1回浦安市教育ビジョン策定検討委員会議事録」を基に
説明)

委員長 : 何かご質問等ございませんか。それでは、配付資料をもちまして、令和元年度

第1回浦安市教育ビジョン策定検討委員会議事録が承認されました。

3. 議 事

(1) 浦安市教育振興基本計画（浦安市教育ビジョン）の骨子（案）について

事務局 : (資料2「浦安市教育振興基本計画（浦安市教育ビジョン）骨子（案）」を基に説明)

委員長 : 28 ページに「浦安市の社会教育を取り巻く現状と課題」があり、学校教育と対をなすというかたちがとられています。ただ、ここでは、どちらかというとし生涯学習という言葉で語られていますが、社会教育という言葉で示しているのは、何か狙いがあるのでしょうか。社会教育という意味を、ここで生涯学習推進計画と生涯スポーツ推進計画の両方を含ませているというような意味合いでということだと思うのですが、そういうことならば、生涯スポーツについての言及がなされていないのではないのかという印象を受けます。

事務局 : 一点目ですが、今委員長がおっしゃったように、今回、学校教育と社会教育、いわゆる生涯学習を含めた意味での社会教育というようなことで、ここでは「浦安市の社会教育」という用語を使って示しております。

二点目ですが、スポーツについて、確かにご指摘の通り記載がないので、そちらの方については再考したいと思います。

委員 : 26 ページの「郷土愛」のところですが、以前、「郷土愛」はよいが、それが浦安市の中だけで完結してしまうと進歩がない、という話があった気がします。この文章を読むと、グローバル化の話は入っているのですが、それはあくまで並列的に他の問題として入っているというように読めます。世界の中で見て、浦安市をどのように位置付けるかは非常に重要な視点だと思いますので、そういう意味で「郷土愛」に言及することもご検討いただければと思います。

事務局 : 記述の仕方について考えてみたいと思います。

委員 : グループ討議の時に申し上げたのですが、アメリカの教育は宇宙の学習から入って、その中に地球があって、アメリカがあって、そして今の自分たちがいるというように、どんどん狭くなっていくような教育で、とてもいいなと思いました。ところが、こちらに参りましたら、小学校1年生から、中学に入ってもまだ浦安市のことばかりを学んでいて、広がりがないなというのがちょっと寂しいような気がしました。グローバルな視点を取り入れるような「郷土愛」をご検討いただくとよいと思います。

委員長 : 「郷土愛」、それから国際理解のことで、ご意見をいただきました。このことについては、前回も議論がありました。

26 ページの「郷土愛」の主な課題のところ、上段と下段がやや異質な感じに入っているような気がするの確かです。国際理解ということで、単純に理解するだけではなく、「共生」という言葉を使ったというのは進歩ではないかと思えます。そう考えると、下段は、例えば「国際理解や多文化共生に関する教育

のさらなる推進」といった言葉を使うと、先ほどの委員のお考えも含まれると思います。地域社会、つまり郷土浦安においても実際に外国人の居住者が増えています。浦安的な国際理解が必要なのだということだけではなく、地域における多文化共生、実際に足元から実施していくという意味で多文化共生ということを入れるとよいのではないかと思います。” Think globally、 act locally”という言葉があります。これは古い言葉かもしれませんが、未だに生きている言葉、あるいは永遠に生きる言葉なのだろうと私は考えています。

委員 : 27 ページ「教育環境の整備・充実の推進」の主な課題に「教職員の事務軽減化による、児童生徒と向き合う時間の確保についての具体的施策の展開」とありますが、実際は事務の軽減化だけが対策ではないので、「教職員の、児童生徒と向き合う時間の確保」にした方がよいと思います。

事務局 : 考慮したいと思います。

委員 : 今回、1 ページから 30 ページに、基本理念「学び 育み 認め合い 『未来を創造する』人づくり」という言葉にたどり着くまでの経緯がいろいろ入っております。国の背景、市の現状、今後市の児童生徒数がどう変わっていくのかも含めてまとめ、この言葉にたどり着きました。併せて基本目標 1 の方も「自ら学び 自他を尊重する心と 新しい時代を切り拓き しなやかに生きる力を育みます」とさせていただいたのですが、この言葉ができあがったということが、生涯学習と生涯スポーツの視点からしっかり説明できているかどうかというところがあります。学校教育の方に強く視点が当たってしまったのではないかと思います。何かアドバイスがあればいただきたいと思います。

委員長 : 第 3 章の第 1 節に「基本理念」がありますが、その説明がこの 30 ページの説明だけでは弱い感じがします。どうしてこのような基本理念になったのかということ、もちろんその背景としては 29 ページまで滔々とあるのですが、それとどう関連するのかが確かに少し弱いと思います。もう少し、前章から必要なところを取り上げて、ここの説明を膨らませることがまず重要だろうと思います。枠の中に一つ一つの文言の説明が書いてありますが、ここはやはり他の基本目標のところと違い、丁寧に、もうちょっと関連性を持たせたかたちで記述する必要があると思います。

委員 : これまでの教育ビジョンは学校教育に特化したものでした。今回の「学び 育み 認め合い 『未来を創造する』人づくり」という基本理念を、本校の職員たちにどう説明するかと考えると、一つは、今回は学校教育と社会教育が包含したということです。ただ、学校教育と社会教育は別々のものではないわけです。学校現場の先生たちは、「私たちは学校教育の部分だけ分かればいい」というものではなく、今後、社会教育にどうつなげていくかということも考えていかなければいけない立場にあると思います。これまでの教育ビジョンは、23 ページに構想図、グラウンドデザインとまで言えるかどうか分からないのですが、このようなかたちで示されていました。基本理念が真ん中にあり、「このような子どもたちを育てていくのだ」ということが一目で分かるようなかたちで

した。今回も、学校教育と社会教育をどう関連付けて、今の振興計画が成り立っているのかという構想図、グランドデザイン的なものを作っていただくと、一目で学校教育と社会教育がどう関連し、包含された計画なのかがわかると思います。加えて、学校教育のみならず、「地域とともに」ということも謳われています。せっかくそれぞれの役割というものが示されていたかと思いますが、そのグランドデザインの中にそれぞれの役割があると、誰が見ても、どの立場の人が見ても、教員だけではなく市民の立場から見ても、この振興計画が身近なものになって分かりやすくなるのではないかと思います。

副委員長 : 28、29 ページの、点線の枠で囲まれた「主な課題」の中に、「部活動の支援」ということがあるかどうか探しました。これまでは学校教育が終わった後に社会教育という考え方でしたが、浦安市はそのような古典的なすみ分けではなく、学校教育と常に並行して、常に相互のやりとりがある、その具体例の一つが、部活動への支援ということだと思います。場合によっては、その先には、浦安市の部活動は社会教育に移行させていくのだという含みを持たせたものとして、あり方を考えてほしいと思います。学校教育が終わった 15 歳、あるいは 18 歳以降、そこから生涯スポーツ、生涯学習が始まるのだというこれまでの整理の仕方ではなく、0 歳から生涯教育と学校教育というのは常に並走しながら、常に一体的にやっていくのだということで、例えば、学校の体育にしても、浦安市の社会教育の施設を大いに使って、学校の授業を行うとかですね。ただ、この 28、29 ページは、やはり従来型の、学校教育が終わってからの生涯学習といった並びになっています。もっとこの課題自体が斬新なものであったり、あるいは英米系の社会の中で行われているような具体的な取組等がこの中に登場したりするとよいと思います。先ほどグローバル化とありましたが、このようなところに具体的な姿を現していくとよいと思います。包摂や一体というならば、この課題自体を差し替えなければいけません。あるいは、従来のものがとりあえず残っているというような扱い方で考えていくのも一つだと思います。その辺りをご検討いただければと思います。今の浦安市の部活はどうなっているのですか。

委員 : 社会人も活用はしています。顧問まではいかないのですが支援という形で。

副委員長 : 浦安市は具体的にどういう方向を目指しているのかというところをこの際投影させていかないと、意味がありません。例えば、現状はこうで、だからもっと浦安市の市民の方に関わっていただきたいということなのか、そうすると学校の立場からは、やはり学校の教育課程があるわけで、その辺りをどのようにしていくのか。それがこの生涯教育と学校教育との連携のあり方ということで、じゃあ市はそれにどのような解決策を出してくれるのか、どれぐらいの予算を投入してくれるのかというようなキャッチボールが始まることによって、浦安市型の部活動というものの次の時代の姿が見えてくると思います。

委員 : 今の件で、教育総務部として発言させていただきます。部活動における社会教育との連携については、教育長も同様の考えで、働き方改革も関連させ、部活

動のあり方を検討するよう指示が出ております。指導者の問題も含め、これから実態調査をしながら検討していこうという動きになっています。まだ具体的には進んではいませんが、各市の状況を調べたりしながら、これから進めていこうという話になっています。

副委員長 : そういったことについて、浦安市が動くことがあるとすると、それは全県的に注目されると思います。全県からのパイロット的な取組ということになってくるかと思しますので、大きな期待をしたいと思います。

委員長 : 31 ページの「郷土愛を育む学校教育を目指します」と書かれているところを、例えば「郷土愛を育み、多文化を尊重する学校教育を目指します」とするよう提案したいと思います。

副委員長 : 点線で囲んだ中に「主な課題」という言葉を使っていますが、「課題」という表現はどうだろうかと思えます。ここを見る限り「問題がある」という意味の「課題」ではないと思うのです。むしろ「これから取り組もうとすること」という意味で、ここを「課題」と使っているのかなと思いました。これから取り組もうとすることとか、いわゆるタスクということで、プロブレムという意味ではなく、浦安市がこれから実現を目指そうとする方向性とか、取り組むべき基本的な考え方というのが、この点線の枠の中に込められているのではないかと思います。将来に向けてとか、重点的にこれから取り組もうとしていることとか、その辺り、少しニュアンスを込めた言葉が使われるとよろしいかと思います。

委員長 : ありがとうございます。それでは次に、(2) 浦安市学校教育推進計画の骨子(案)について、事務局から説明をお願いします。

(2) 浦安市学校教育推進計画の骨子(案)について

事務局 : (資料3「浦安市学校教育推進計画骨子(案)」を基に説明)

委員長 : この推進計画については、本格的な検討は今日が初めてになりますので、基本的な部分等につきまして、忌憚のないご意見をいただきたいと思えます。

委員 : この推進計画については、3ページ以降いろいろな調査結果が載っており、それをどのようなカテゴリで示してあるかということ、もともと子ども像ごとに調査をしているので、まとめ方も子ども像ごとにまとめてあります。そして2章に入り、新しい計画を作っていくという段階のカテゴリも、基本的には子ども像を引き継いで書いてあるつくりになっています。「知」「徳」「体」は基本だと聞いておりますので、これは動かせないかとは思いますが、子ども像につながるようなものとして何が必要なのかということについてご意見をいただきたいと思えます。

委員長 : 3ページをご覧ください。一番上のところに書いてあるのですが、「浦安市の学校教育をめぐる現状と課題」は、現行の後期基本計画に基づく調査結果とアンケートの調査結果、この両方からしか整理していません。皆さんには、今まで様々な視点から意見を出していただきました。また、先ほどの教育振興基本計画には「教育を取り巻く我が国の状況」ということで、日本全体で考えていか

なければいけない取組、課題が示されています。こうした視点をここに加えていく必要があるのだろうと感じます。今示されている現状と課題の中に、国が指摘しているものや、皆さんが感じている課題としてこの会で話題になったようなことを取り上げていく必要は十分にあると思います。

事務局 : 確かに、成果物としては教育振興基本計画と学校教育推進計画は別立てになりますので、こちらを見ただけだと、既存調査、アンケート調査の結果のみに見えてしまいます。その辺も含めて考えていただけたらと思います。

委員長 : 子ども像の括りについては、前回も議論していただいたところなのですが、直接的にこのようにすべきだというアイデアは出ないにしても、ちょっと考えた方がよいのではないかという点を指摘していただけると有意義な時間になるのではないかと思います。

「郷土愛」と「豊かなかかわり」というのは、上の3つ「知」「徳」「体」のいわば応用的な側面、あるいは対社会的な側面を持った要素だと思うのですが、その辺の括り方について、最終的にやはりこのままの括りも考えられるでしょうし、「豊かなかかわり」と「郷土愛」を統合させたかたちでまとめてしまうということも考えられます。「豊かなかかわり（参画・交流）」のところにも、今回「郷土愛」のところに入れた「多文化共生」という側面があるかと思います。ここで出されている「豊かなかかわり」というのは、基本的に日本人同士のコミュニケーションを念頭に置いた「豊かなかかわり」であり、実際には外国人の人たちが多く入ってきている中での交流、関わりも「多文化共生」ということで課題になってきていると思います。その辺りをどうするかです。また、これは社会科の学習のあり方にも関わってくるのですが、身近な地域から世界を広げていくというかたちで日本の社会科ではやってきました。それとは逆というアメリカの例がありましたが、他国でもそのような事例はあります。自分のアイデンティティを子どもなりに持つことが必要です。そういった意味では、やはり「誇り」、ここでいう「郷土愛」みたいなものは、どこかに据えておく必要があるわけですが、その辺がこうした括りでよいのかといったことが議論の対象になるのではないかと思います。

委員 : 国際交流、国際理解、多文化共生というのは、「豊かなかかわり」の方にかかってくるという印象がありますので、一緒にした方がよいと思います。

委員 : 「知」「徳」「体」の3つにまとめることもできると思います。下の2つはそれに組み込もうと思えば組み込めるので。ただ、浦安市として何か積極的にこれをアピールしたいということがあって下の2つが付いているのだろうなと思いますので、その辺り、ミニマムの方がいいのか、アピールするものがあつた方がいいのか、そうしたことも含めて考えてもいいのかなと思います。

委員 : 学校代表としても、今の委員がおっしゃられたように、全て「知」「徳」「体」としてまとめられなくはないと思います。現行の教育ビジョンを踏まえて、学校教育目標や経営方針を作っていく中で、やはり5つの子ども像は並列ではないという印象は常にありました。「豊かなかかわり」というのは、「確かな学力」

の中にも必要になってくる要素です。今、「主体的、対話的で深い学び」というのが一つのキーワードになっている中で、関わりながら、対話的に学んでいくということが言われています。ましてや「豊かな心」という部分では、「徳」の部分はやはり関わりを通して育まれていくものですので、並列ではないなという捉えです。これまでは、「知」「徳」「体」に加えた「浦安らしさ」として、「この2つを重点的に進めていくのだ」というように解釈して進めてきたのですが、これを機に、ここを整理してみるのも一つの方法なのかなと思います。「浦安らしさ」は担保しつつ、整理していくことも一つなのかなという感想です。

委員長 : 「知」「徳」「体」だけにしてしまっただけにして、その中にこうした「豊かなかわり」「郷土愛」を、それぞれこういうところで強調したいのだからということで浦安市らしさを出すこともできるかと思えます。そういういくつかの構造図ではないですが、パターンを示していただけると考えやすいかもしれません。

委員 : 17 ページの構造図を見ると、5つがまったくの並列のように感じられて違和感があります。「郷土愛」と「豊かなかわり」は、「浦安らしさ」として、下に土台としてあるのかなど、その辺を少し整理することも一つかなと思います。

委員 : 私の感想としては、家のようなものの中に「知」「徳」「体」があり、その土台として、3つ全てに関わることとして「豊かなかわり」と「郷土愛」があるのかなという、絵としてのイメージがあります。

委員長 : 絵として表現するときに、要素を3つにするか、あるいは5つにするか、あるいは場合によっては、「豊かなかわり」と「郷土愛」は応用的な側面、支える部分というかたちで一括りにすれば4つということも考えられます。

委員 : 17 ページには、2行しか説明が書かれていません。2行目に「5つの子ども像を踏襲します」としか書かれていません。なぜ踏襲するのか、なぜ、この5つの子ども像を据え置くのかというストーリー性を作りながらまとめないといけないと思っています。

委員長 : それでは、今の大枠以外のところで何かご意見はありませんか。

委員 : 学校教育の推進計画なので、当然、幼稚園、認定こども園も入っています。24 ページ「施策の方向性」の「1 主体的な学び（知）」の「学びの連続性を重視した教育の推進」の1つ目に「小中連携」とあり、なんとなく幼児教育が抜けているような感じがします。学校教育には、幼児期の学校教育も含まれると思いますので、ポイントのところだけは入れていただきたいと思います。

事務局 : 現行の教育ビジョンの後期基本計画には、「小中連携・一貫教育の推進」「幼・保・小・中連携教育の推進」「中・高連携教育の推進」というかたちで載っていますので、施策の方向も含めて整理していきたいと思えます。

副委員長 : これからの育てたい子ども像については回を重ねて議論してきましたが、そういった子どもたちを育てる学校、目指す学校のあり方、あるいは、浦安という地域社会のあり方については議論しなくてもよいのでしょうか。やはり育てたい子ども像は、学校、家庭、地域の連関の中であるものだと思います。学校と地域と育てたい子どもの姿との相互の脈絡というか、関連というか、この基本

計画のまさにグランドデザインという辺りのところを整理した方がよいと思います。もう少し視野を広げないといけないのではないのでしょうか。

事務局 : 今後、作業部会のようなかたちで別途時間をとらせていただく機会を考えております。またそこで教育総務部関係の担当課とも行う予定でおります。学校と身近にある関係部署ですので、そういったところで目指す子ども像だけではなく、例えば目指す学校のあり方についても話ができればよいと考えております。

副委員長 : 24 ページですが、「子ども像の実現に向けて」と「子どもを支える教育環境の整備・充実に向けて」と、大きく2つに括ってあります。これは先ほどの話でいくと、「主体的な学び」から「郷土愛」までの5つの中に、下の「教育環境の整備・充実」を全部放り込むこともできなくはないと思いますが、そのようなやり方をすると、いろいろな無理が起ころう可能性があると思います。もう一つは、「子ども像の実現に向けて」と「教育環境の整備」ということのバランスというか、いうなれば「子ども像の実現に向けて」というところについても、ある意味でいうと、環境整備や充実のことが書いてあるのですよね。それはそれとして、おそらく1から5まででフォローしきれない、位置付けきれないものを下の6-1、6-2、6-3というように配列しているというように読み取れるわけです。その辺りのところについてどうなのかということなのですが、これは私の個人的な勝手な邪推なのですが、この表の6-1、6-2、6-3の方が、むしろこれありきで、今我々がやっていることは演繹的にこの施策まで落とそうとしているのですが、基本目標から施策まで到達すればよいのですが、どうもこの施策が待ち受けているようなところがあるような気がします。この施策自体が、ある意味統廃合され、今我々の目で見えていない新たな施策がここに登場するなど、作業の進め方としてこれがあるのだということを説明していただくことも必要だと思います。

基本計画というのは、この子どもたち、あるいはこのような学校を実現するには、政策として何をどうしたらよいかということを一覧として挙げていただくことが、目指すところではないかと思います。この子ども像についての基本目標を基にして、この施策のところ、次にどのようなことが出てくるのか期待しています。

事務局 : この施策の体系についても、次回お示しするときに、現行と対比できるかたちで示したいと考えています。

副委員長 : 「参加・参画」ということが現代の社会の中で大変大切な点ではないかと思います。私たちがここで議論をさせていただいているのも、「参加・参画」という視点があつたからこそです。先ほど言ったように、学校、地域社会、子どもの育て方といった絡みの中でキーワードとしての「参加・参画」ということも出てくるのが、むしろ落ち着きやすい点、扱いやすい点でもあるかと思います。そういったところで、グランドデザインが大切になってくると思います。

委員長 : 社会教育、学校教育を含めたグランドデザインということで、教育振興基本計画にも今の話が反映されるだろうと期待しております。

それでは、議事については以上で終了させていただきます。

4. 諸連絡

事務局 : 次回開催につきましては9月3日、火曜日の10時半からを予定しております。
場所は10階の協働会議室です。

5. 閉会

委員長 : それでは、以上で第2回浦安市教育ビジョン策定検討委員会を閉会とします。
どうもありがとうございました。